

令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立佐伯中学校	校長	小田 大介	生徒指導主事	秋田 智恵
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『あいさつマイスター』
-------	-------------

取組における育てたい資質・能力					
-----------------	--	--	--	--	--

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「積極性」	1	「自らの自信」	2

取組のねらい					
--------	--	--	--	--	--

- 自分から積極的にあいさつができる生徒を育成する。
- 自己肯定感を持たせ、他者とのかかわりの楽しさを実感させる。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『視覚化』
----------	------------------

<p>①前年度の生徒会アンケートから、現在の課題が「あいさつ」であることを認識し、今年度の生徒会の重点取り組みを「あいさつ」とした。</p> <p>②「あいさつ」を全校生徒に頑張ってもらうために、生徒会としてどのような取り組みができるか考えた。</p> <p>③生徒会アンケートより、前年度に「掃除マイスター」の取組を始めることで掃除を頑張る生徒が増えたという結果を元に、今年度は「あいさつマイスター」の取組を始めることを、生徒総会で全校生徒に提案した。</p> <p>④生徒総会后、全校生徒から「あいさつマイスターバッジ」のデザインを募集した。</p> <p>⑤各クラス2枚ずつ良いデザインを選出し、全校生徒にタブレットで投票させて、デザインを決定した。</p> <p>⑥生徒のデザインでバッジを業者に作製依頼をかけた。</p> <p>⑦バッジが完成した段階で、生徒会役員が各学級に出向き、「理想のあいさつの仕方」の手本を見せて、「あいさつマイスター」の取組を開始した。</p> <p>⑧「あいさつマイスター（バッジ取得者）」が一目でわかるように、生徒玄関前に掲示した。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会執行委員が「理想のあいさつの仕方」の手本を見せた。 ・タイムリーにシールをもらい、生徒手帳に貼りためることで、「自らの自信」につながった。 ・マイスター（バッジ取得者）を掲示して、全校生徒に提示することで、「自己肯定感」につながった。
--	---

取組の成果と課題	
----------	--

- 生徒会アンケートの結果より、「自分から進んであいさつしていますか」の項目で、「とてもあてはまる」と答えた生徒が、令和4年1月【43】%から、令和5年1月は【58】%に増加した。
- ▲シールを配布するのは教員なので、教員に温度差があり、よいあいさつをしてもシールをもらえなくて残念がる生徒がいる。